

				科目コード	428
科目名	臨床微生物学実習 (Practice in Clinical Microbiology)			開講学科	臨床検査学科
選択区分	必修	単位数 (時間)	1 単位 (45時間)	履修時期	3 年次後期
担当教員	北尾 孝司			科目区分	専門科目
授業概要	臨床微生物学で学んだ各種微生物の特徴と感染症を理解し、各種感染症の起炎菌である病原微生物の検出方法、薬剤感受性試験および薬剤耐性菌の検出方法・同定法について学ぶとともに検査結果のまとめ方について教授する。また各種細菌の同定・薬剤耐性因子における遺伝子検査について教授する。				
授業目標	臨床微生物学で学んだ各種微生物の特徴と感染症を理解し、各種感染症の起炎菌である病原微生物の検出・同定方法、薬剤耐性菌の検出方法について修得するとともに得られた検査結果について報告書の作成について学ぶ。また各種細菌の同定・薬剤耐性因子における遺伝子検査の方法を習得する。				

授業内容

回	項 目	内 容
1～2	呼吸器感染症起炎菌の検査法 (1)	咽頭拭い液の採取方法、呼吸器系感染症起炎菌 (喀痰材料) の塗抹検査法、分離培養検査法を行う
3～4	呼吸器感染症起炎菌の検査法 (2)	呼吸器系感染症起炎菌 (喀痰材料) の塗抹検査と分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う
5～6	呼吸器感染症起炎菌の検査法 (3)	呼吸器系感染症起炎菌 (喀痰材料) の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる 薬剤感受性試験の結果についての判定を行う
7～8	腸管系感染症起炎菌の検査法 (1)	便の採取方法、腸管系感染症起炎菌 (糞便材料) の分離培養検査法を行う
9～10	腸管系感染症起炎菌の検査法 (2)	腸管系感染症起炎菌 (糞便材料) の分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う
11～12	腸管系感染症起炎菌の検査法 (3)	腸管系感染症起炎菌 (糞便材料) の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる 薬剤感受性試験の結果についての判定を行う。PCR によるVero毒素の検出を行う
13～14	髄膜炎・菌血症・敗血症起炎菌の検査法 (1)	髄膜炎起炎菌 (髄液材料)、菌血症・敗血症起炎菌 (血液) の塗抹検査法、分離培養検査法を行う
15～16	髄膜炎・菌血症・敗血症起炎菌の検査法 (2)	髄膜炎起炎菌 (髄液材料)、菌血症・敗血症起炎菌 (血液) の分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う
17～18	髄膜炎・菌血症・敗血症起炎菌の検査法 (3) 真菌の検査方法	髄膜炎起炎菌 (髄液材料)、菌血症・敗血症起炎菌 (血液) の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる 薬剤感受性試験の結果についての判定を行う PCR による薬剤耐性菌の検査法について行う 皮膚表在組織病変部からの検体採取方法、酵母様真菌の分離培養、酵母様真菌・糸状菌スライドカルチャー法、糸状菌の巨大培養法について行う
19～20	性感染症、尿路感染症起炎菌の検査法 (1)	性感染症、尿路感染症起炎菌 (尿) の培養検査法、塗抹検査法を行う
21～22	性感染症、尿路感染症起炎菌の検査法 (2) 真菌の集落・形態観察	性感染症、尿路感染症起炎菌 (尿) の分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う 真菌の集落および形態の観察を行う
23	性感染症、尿路感染症起炎菌の検査法 (3)	性感染症、尿路感染症起炎菌 (血液) の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる 薬剤感受性試験の結果についての判定を行う
成績評価方法	次のように配点して評価する 定期試験 50%、レポート 50%	
教科書	臨床微生物学実習書を配布する。 山中喜代治「新・カラーアトラス微生物検査」(医歯薬出版)	
参考図書等	森田耕司ほか「微生物検査学 実習書」(医歯薬出版株式会社)	
備考	(関連科目)「微生物学」「臨床微生物学Ⅰ・Ⅱ」「微生物学実習」	